

イスラエルの秋の例祭

2008年10月18日 アシェル・イントレーター

トーラーの例祭は、ヘブライ語で二つの名前と呼ばれています。

ハグー例祭という意味で、「集まる」または「輪になってダンスする」語根から来ています。

モエツドー「指定された時」という意味で、「神のご計画」あるいは「目標」という語根から来ています。

ハグはお祝いの側面を強調し、モエツドは預言的な意味を強調します。

メシアの2度の降臨に対応する2種類の例祭日

トーラーには2種類の例祭があり、3つの例祭は春に、3つの例祭は秋にあります。春の例祭はイエシュアの最初の降臨に関連し、一方秋の例祭は主の再臨に関連しています。最初の降臨時の3つの偉大な救いの働きはすべて春の例祭一つ一つに関わっており、丁度その日に行われました。

ペサハ(過越の祭り)－主の十字架

オメル(初穂の祭り)－主の復活

シャヴオット(七週の祭り)ペンテコステ、あるいは聖霊の大いなる注ぎ

終わりの時に関する預言で、3つの主要な出来事が起こります。艱難、主の再臨、そして千年王国です。私たちは、これらの出来事は主の例祭が表しているものに関連していると理解しています。

テルアー(ラッパを吹き鳴らす祭り)－艱難

キップール(大贖罪の日)－主の再臨

スッコート(仮庵の祭り)－千年王国

ラッパを吹き鳴らすことについての混乱を解く

ヨム・テルアー(ラッパを吹き鳴らす祭り、レビ記 23:23)とヨム・キップール(大贖罪日、レビ記 25:9 章)に命令されているラッパを吹き鳴らすことについていくつかの混乱があります。

ヨム・テルアーでラッパを吹き鳴らすことについて、エリコ攻略戦(ヨシュア記6章)で継続して吹き鳴らされ、イスラエルの宿営の動員(民数記 10 章)、そして様々な宗教的、政治的、そして軍事的集結の際に吹き鳴らされました。テルアーで角笛を吹き鳴らすことは、行動を促し、預言的な警告をもたらすものです。

聖書に述べられているラッパほとんどヨム・テルアーに関連しています。これらのラッパは黙示録の7つのラッパにおいて成就します。あたかもエリコに対して7つ目のラッパによって総攻撃を開始し街を陥落させたように(ヨシュア記 6:20)、7つ目のラッパはこの世界の王国は、イエシュアの御国によって取って

代わることを宣言するものです。(黙示録 11:15)それは、神の聖徒たちにこの世の王国を力によって取る(マタイ 11:12、ダニエル書 7:18)ための呼びかけです。これは、御国の勝利へと導く霊的戦いのメッセージです。

しかし、この7つ目のラツパは「最後の偉大なるラツパ」ではありません。最後のラツパはヨム・キップールに関連し、ヨベルの年の開始を象徴するために吹き鳴らされます。その特別なラツパは下記に述べられています。

出エジプト記 19:13、16、19—シナイ山で

レビ記 25:9—ヨム・キップール

イザヤ 27:13—死者の復活、携挙

1 コリント 15:52—主の再臨、復活、携挙

1 テサロニケ 4:16—主の再臨、復活、携挙

この特別なラツパは神ご自身のもので、歴史上たった2回しか吹き鳴らされません。1度目はシナイ山で、そして二度目は主の再臨時です。ラツパは主が天の軍勢を従えて降りてこられる際に再びイエシュアご自身によって吹き鳴らされます。(黙示録 19:11)ラツパはガブリエルやミカエルのような大天使によって吹き鳴らされるのではありません(1 テサロニケ 4:16 の誤解)。天の軍勢の総司令官としてイエシュアは攻撃を命令するのです。(ヨシュア 5:13)聖書的なパターンにならない、ヨム・キップールのヨベルの年を告げるラツパが吹き鳴らされる時、その重大な出来事が起こるのです。

神殿の祭司職にとって最も偉大な日はヨム・キップールで、それは年に1回大祭司が至聖所に入るので、最も偉大な日はイスラエルの預言者によって「主の大いなる恐るべき日」(ヨエル 2:1, 31)と述べられている最後の審判の日です。イスラエルの預言者によって述べられている最も偉大な日は、最後の審判の日、「主の大いなる恐るべき日」(ヨエル 2:1, 31)です。終わりの時の最も偉大な日はイエシュアの再臨です。祭司たちの「大いなる日」、預言者たちの大いなる日、そして王なるメシアの大いなる日はすべて同じ日を指しています。聖書のパターンは一定しています。

仮庵の祭りの預言的な意味

仮庵の祭りはラビたちによって「大いなる例祭」、そして「収穫祭」とも呼ばれています。トーラーはこの例祭の間の喜びに強調点を置き(申命記 16:15)、ただ「喜びなさい」とも述べています。すべての例祭にあるように、3段階の解釈があります。1. 農耕的、2. イスラエルの出エジプト、3. 新しい契約です。預言の成就是ゼカリヤ 14:16に見られます。「エルサレムに攻めて来たすべての民のうち、生き残った者はみな、毎年、万軍の主である王を礼拝し、仮庵の祭りを祝うために上って来る。」(イザヤ 27:13 と比較して下さい。)

この御言葉を成就するために、現在、多くのクリスチャンが仮庵の祭りの時にエルサレムにやってくるのです。この御言葉が最後に成就するのは、千年王国においてです。この御言葉からいくつか教えを見て

いきましょう。

預言—この例祭は将来祝われるので、これには預言的な意味を持ちます。これは重要なものです。

現在—もしこれが過去に命令され将来に対して預言されているものであるならば、トーラーは有効性を持つはずであり、これらの例祭は現在にも意味を持つのです。これは今日的にも意義があるものです。

全世界的—これは単にユダヤの例祭ではなく、すべての国々のものであり、全世界的、多文化的な祝祭なのです。これは非常に大規模なものです。

改革—もしユダヤ人とクリスチャンが共にこの例祭を祝うなら、歴史的な和解が両者間であるべきです。これは一致をもたらす例祭です。

祝祭—戦争や艱難の後、ハッピーエンドがあります。喜び、平和、そして勝利の時です。これは有望なものです。

千年王国—主の再臨時の大いなる戦争の後にこれが起こるので、千年王国は文字通りのものであり、比喩的なものではないことを証明しています。これは事実です。

エルサレム—すべての国々がイエシュアの千年王国の首都であるエルサレムにやってきます。主の地上における王座はそこに置かれます。ここが中心です。

エルサレムをめぐるこのような霊的、政治的、そして軍事的戦いが起こっているのは不思議ではありません。ゼカリヤ 14:16 は 2 節と並行しています。「わたしは、すべての国々を集めて、エルサレムを攻めさせる。」16 節で彼らはやってきて礼拝し、2 節では彼らはやってきて戦うのである。すべての人がエルサレムに引き寄せられるのは、この2つの理由のどちらかによるのです。

イエシュアの霊が主の民を礼拝へと導きます。主は主の敵が戦うよう引き寄せます。(3 節には「主が出て来られる。決戦の日に戦うように、それらの国々と戦われる。」とあり、エルサレムと敵対する者と主は戦われると述べています。)すべての人がエルサレムにやってきます。選択肢は、エルサレムに敵対して戦うか、ここで王を礼拝するかどちらかです。問題は、私たちはどちらにいるかです。